

医学教育分野別評価
山口大学医学部医学科
年次報告書
令和4年度



医学教育分野別評価 山口大学医学部医学科 年次報告書

令和4年度

医学教育分野別評価の受審 2019（令和元）年度

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.31

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.34

はじめに

本学医学部医学科は、令和元年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、令和2年8月1日より7年間の認定期間が開始した。

令和3年度は、令和2年度に引き続き、コロナ対策をしながらの学科運営となった。対面での講義・実習を原則としつつも、感染状況に配慮しながら遠隔授業を適宜併用してきた。令和2年度に引き続き、既存の山口大学修学支援システム(eYUSDL)、山口大学医学教育総合電子システム(eYUME)、Moodleに加え、Zoom、Webex等のオンラインツールを活用してきた。また、医学科生の主要のLMSであるeYUMEも、学修成果基盤型教育に対応したブラッシュアップを継続して行ってきたところである。

令和4年度は、今年度中に改訂が予定されている「医学教育モデル・コア・カリキュラム」の情報を収集しつつ、引き続き、学修成果基盤型教育及び形成的評価を推進する。また、学生や外部の専門家が委員となっている教育プログラム評価委員会等からの評価を教育プログラムの改善に活用する。

医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.34 を踏まえ、令和4年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、令和3年4月1日～令和4年3月31日を対象としている。また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.34 の転記は省略した。

1. 使命と学修成果

領域1における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、医学科アドミッション・ポリシー、医学科ディプロマ・ポリシー、附属病院の臨床研修の目標に加え、大学院医学系研究科医学専攻のディプロマ・ポリシーも含めた、「山口大学医学部医学科・附属病院・大学院医学系研究科の連続した学修成果基盤型(アウトカムベースド)教育の推進」を可視化し、eYUME で広く周知を行っている。

卒前・卒後が連携したシームレスな一貫教育を行い、アドミッション・ポリシーで定めた“山口県をはじめとした地域医療に貢献する人材”を育成すると同時に、“国際的視野を持った人材”を育成することが今後の課題といえる。

1.1 使命

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・ 山口大学の理念、医学部医学科の理念・目的と目標、ミッションの再定義(医学系分野)強みや特色などの役割、およびディプロマ・ポリシーを含む 3 ポリシーを「山口大学医学教育総合電子システム(eYUME)」を用いて広く示している。

改善のための助言

・ 山口大学の理念、医学部医学科の理念・目的と目標、ミッションの再定義(医学系分野)強みや特色などの役割、および 3 ポリシーの相互の関係を整理し、医学部の使命についてより明確に示すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・ 医学科アドミッション・ポリシー、医学科ディプロマ・ポリシー、附属病院の臨床研修の目標に加え、大学院医学系研究科医学専攻のディプロマ・ポリシーも含めた、「山口大学医学部医学科・附属病院・大学院医学系研究科の連続した学修成果基盤型(アウトカムベースド)教育の推進」を可視化し、eYUME で広く周知を行っている。

改善状況を示す根拠資料

・ 資料 1-1:山口大学医学部医学科・附属病院・大学院医学系研究科の連続した学修成果基盤型教育(アウトカムベースド)教育の推進

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・ なし

改善のための示唆

- ・使命に国際的健康、医療の観点をより明確に示すことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・医学科アドミッション・ポリシーや医学科ディプロマ・ポリシーで、“国際的視野を持って医療に貢献する人材”の育成を掲げており、国際対応力が身に付く自己開発コースのオリジナルコース等のカリキュラムの活用を、入学希望者や低学年次の学生に、引き続き周知を行う。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

1.2 大学の自律性および教育・研究の自由

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・なし

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・なし

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

1.3 学修成果

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・学生が達成を示せるよう、学修成果/コンピテンシーを具体的に策定すべきである。

学修成果については、教育ユニットの個々の目標の集合のみでなく、6年間を通してその達成度が段階的に測定できるように設定すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・全国医学部長病院長会議が示す「医学教育モデル・コア・コンピテンシー（2017年5月26日）」において、“マイルストーンは別途作成中”とある。医学科ディプロマ・ポリシーは、このモデル・コア・コンピテンシーを参考に作成しており、学修成果/コンピテンシーの具体化や段階設定（マイルストーン）の策定においても、上記会議が提示するマイルストーンの詳細が待たれるところである。一方で、本学でも独自にマイルストーンを作成しており、上記会議が提示するマイルストーンと最終的な照合の上、正式に設定する予定である。

改善状況を示す根拠資料

・資料 1-2: 山口大学ディプロマ・ポリシーと医学専門群におけるマイルストーン

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・卒業時、医学研究および国際保健に関する学修成果について、教育ユニットの個々の目標の集合のみでなく、6年間を通してその達成度が段階的に測定できるように設定することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・上述のとおり、本学でも6年間を通して達成度が段階的に測定できるマイルストーンの作成を開始したところであり、今後全国医学部長病院長会議が提示するであろうマイルストーンと最終的な照合の上、医学研究および国際保健に関する学修成果についても正式に設定する予定である。

改善状況を示す根拠資料

・資料 1-2:山口大学ディプロマ・ポリシーと医学専門群におけるマイルストーン《再掲》

1.4 使命と成果策定への参画

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・使命と目標とする学修成果の策定には、学生を含めた教育に関わる主要な構成者が参画すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・3 つのポリシーやマイルストーンの改訂にあたっては、医学部学生自治会会長、副会長、各学年総代等の学生代表者を委員とするカリキュラム委員会で協議を行う。また、eYUME を使用して、学生・教職員にパブリックコメントの場を設けた上で、教授会の議を経ることとする。

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・使命と目標とする学修成果の策定には、他の医療職、患者、公共の代表者など、より広い範囲の教育の関係者からの意見を聴取することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・3 つのポリシーやマイルストーンの改訂にあたっては、“医学科長が認めた広い範囲の教育の関係者及び外部の専門家”を委員とするカリキュラム委員会で協議を行う。委員の委嘱にあたっては、他の医療職、患者、公共の代表者など、より広い範囲の教育の関係者から選ぶこととする。

改善状況を示す根拠資料

・なし

2. 教育プログラム

領域2における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、重要な診療科の臨床実習期間の確保、早期臨床体験実習(アーリーエクスポージャー)の増加、垂直的統合教育の推進の検討を、医学教育センターで行った。

今後は、医学科教務委員会で十分に検討を行い、関係部署のコンセンサスを得ながら計画的に実施に移すことが今後の課題といえる。

2.1 プログラムの構成

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

2.2 科学的方法

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・「Open Science Club」、「自己開発コース」、「修学論文テュートリアル」、「高度学術医育成コース (SCEA/AMRA)」などにより、低学年から継続して研究マインドを涵養し、研究を行う機会が提供されていることは高く評価できる。

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

2.3 基礎医学

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・人工知能(医用 AI)について繰り返し教育されていることは評価できる。

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・1年次から6年次までを通じて行動科学の教育が体系的に行われている。

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・人工知能(医用 AI)についての教育が、カリキュラムに取り入れられていることは評価できる。
病気とケア、生と死についての社会・文化的側面、医療環境の変化について、医療人類学のユニットで教育が行われている。

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

2.5 臨床医学と技能

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・2週間ごとに全診療科を回る「臨床実習 1」と6週間ごとの4診療科での「臨床実習 2」の両プログラムにおいて、屋根瓦形式によって診療参加型臨床実習が行われていることは評価できる。
指導医の監督のもとに安全を確保して、積極的に医行為の教育が行われていることも評価できる。
臨床実習ログブックを用いた形成的評価がなされている。
「山口大学医学教育総合電子システム(eYUME)」を用いたアンプロフェッショナルな学生への組織的な対応がされている。

改善のための助言

・全学生に対し、重要な診療科の実習期間をさらに確保すべきである。
地域医療および高齢者医療の教育をさらに充実させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・低年次の新たな試みとして、臨床のイメージが漠然としている2年生に対して、ベーシックな外科手技を体験させ、将来どのような診療科に行っても必要となる臨床手技能力を修得させる目的で、「早期外科体験実習」を開始した。結紮手技・縫合手技・剥離操作等のベーシックな外科手技を体験させるもので、あらゆる診療科で応用できる外科手技教育を強化するとともに、近年全国的にも山口県でも顕著となっている外科医師不足や偏在等の地域課題に対して医学生の外科志向増進を目指している。
・本邦の臨床研修制度が、主要な診療科を必修に戻し、経験症候・疾患も卒前臨床実習との整合(重複)が見られるようになった。重要な診療科で4週以上というのは、日本版注釈で提示されているものだが、卒

後臨床研修および卒前臨床実習で重複して数多くの研修医および医学生が特定の診療科に集中することは、指導医への負担や診療科における病棟・外来の業務管理・安全管理においても影響が大きく、可能な範囲でこの評価基準に対応できるよう検討を続けている。重要な診療科の実習期間を更に確保すべく、「臨床実習2(臨床・クラークシップ)」における選択必修化など、臨床実習プログラムの改訂に向けた検討を行っている。

- ・低年次からのインターンシップ体験実習の参加募集を引き続き行っているが、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止とした(令和4年度は社会情勢を見ながら実施の可否を判断)。
- ・令和3年度は、感染対策に十分配慮の上、「地域医療実習(6年次)」を実施した。加えて、現場の医師を講師とした地域医療セミナーを実施することで、地域医療に関する知識と理解を得る場を充実させた。
- ・令和3年度及び令和4年度の高齢者施設体験実習(1年次)は、新型コロナウイルス感染症の影響で引き続き中止となったが、高齢者医療・介護に関する事前講義を拡充し、制度の仕組みやメディカルスタッフとの多職種連携に関する教育を行った。
- ・「臨床倫理テュートリアル」や「行動医学テュートリアル」では、高齢者医療に関するグループワーク課題を盛り込み、主体的な学修を促進している。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2-1: eyume 早期外科体験実習のユニット概要
- ・資料 2-2: 令和3年度地域医療セミナーの概要
- ・資料 2-3: 令和3年度高齢者施設体験実習講義の概要

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・人工知能(医用 AI)についての教育がカリキュラムに取り入れられていることは評価できる。

改善のための示唆

- ・低学年から段階的に患者と接触し、病歴聴取、身体診察などを行う機会を設けることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・学生が病歴聴取や身体診察等の医行為を患者に行うことについて、共用試験(CBT、OSCE))合格等の事前の医学生の評価が条件とされ、また患者等の同意を得た上で許容される行為と考えられている以上、低年次からこれを行う機会を設けることは容易ではない。本学では、低年次から病院見学や高齢者施設体験実習を実施しており、この中で、患者・高齢者とのコミュニケーションを持つ場を確保するとともに、医行為の見学等、段階に応じた経験の機会を持てるよう、関係部署と調整を行っている。低年次からのインターンシップ体験実習の参加募集を引き続き行うとともに、体験実習として許容される項目について関係部署と調整を行っている。
- ・令和3年度も、新型コロナウイルス感染症の影響で、体験実習を全て中止とせざるを得ない状況であった。また、令和4年度の病院見学や医学生と患者との接触は、社会情勢を見て慎重に再開を判断する方針である。

・今後の社会情勢の変化により許容される範囲で、低年次から患者と接触する機会を設けることを引き続き検討する。

・2年次においては、新たに「早期外科体験実習」を実施し、専門教育初年次(2年次)に外科系の全診療科が参加して外科の基本手技を学び、外科への興味・関心を持たせ将来の診療科選択への早期の動機づけ及びマインドセットを行った後、4～6年次では、新たに複数診療科(消化器・腫瘍外科のほか 11 診療科)において従来の授業・実習形式に加え新たにVR、XR等の高度なデジタル教材を開発し教育効果の更なる深化を図り、卒後研修へシームレスに繋げていきたい。

改善状況を示す根拠資料

・なし

2.6 プログラムの構造、構成と教育期間

基本的水準

特記すべき良い点 (特色)

・なし

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点 (特色)

・なし

改善のための示唆

・垂直的統合教育をさらに推進することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・垂直的統合教育をさらに推進するため、医学教育センター等で、各ユニットにおける基礎系教員と臨床系教員の構成・配置を継続的に検討しており、基礎・臨床が連携した講義やユニット構成を増やしている。
・臨床と病理の垂直統合を推進するため、CPC (Clinico-Pathological Conference:臨床-病理検討会)に

臨床実習で病理診断科をローテート中の学生が参加できるよう、臨床実習プログラムを設計しているほか、学生に広く参加を奨励している。特に、現在はオンラインにより開催していることから、学生に広くアナウンスし、容易に参加できるように工夫している。

・垂直的統合教育の推進として、令和3年度に、2年次カリキュラムの「肉眼解剖学実習」の中に“早期外科体験実習”を配置し、基礎医学授業と臨床医学授業を並行して学修できるカリキュラムを開始した。“早期外科体験実習”は、結紮手技・縫合手技・剥離操作等のベーシックな外科手技を体験させるもので、基盤系教員と臨床系教員が共同で学生指導に当たることで、垂直的統合教育を実現している。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2-4: 基盤系/展開系ユニットにおける臨床系/基礎系教員の参画状況の例
- ・資料 2-5: 病理診断科の臨床実習プログラム
- ・資料 2-6: eYUME に掲載した早期外科教育の動画
- ・資料 2-7: 医学科カリキュラムフローチャート

2.7 プログラム管理

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・教育カリキュラムの立案と実施において責任と権限を持つ委員会に、学生の代表を含むべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・学生の代表を含むカリキュラム委員会を設置しているが、令和3年度は開催していない。プログラム評価委員会等、本学におけるPDCAサイクルの体制整備を進めているところであり、その上でカリキュラム委員会を開催する予定としている。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ委員会に、広い範囲の教育の関係者を含むことが望

まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・広い範囲の教育の関係者を含むカリキュラム委員会を設置しているが、令和3年度は開催していない。プログラム評価委員会等、本学における PDCA サイクルの体制整備を進めているところであり、その上でカリキュラム委員会を開催する予定としている。

改善状況を示す根拠資料

・なし

2.8 臨床実践と医療制度の連携

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・卒業生の学修成果習得状況について関連病院へのアンケートが行われ、その情報に基づき教育プログラムの改良が行われたことは評価できる。

改善のための示唆

・教育プログラムの改良には、地域や社会の意見を取り入れることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・「地域医療実習」を受け入れている地域の約90の医療施設の指導者に、“地域医療実習を行った医学生へのディプロマ・ポリシー（DP／卒業時の学修成果目標）修得状況について”のアンケート調査を行い、その結果を eYUME に掲載し、広くフィードバックを行っている。

- ・アンケートにて寄せられた学生および教育プログラムに関して改善を求める意見を参考に、継続的な改良を行う。
- ・令和3年 11 月に開催した教育プログラム評価委員会で、基幹病院の管理者をはじめ、地域住民や OSCE 模擬患者も委員として参加し、意見交換を行った。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2-8: 地域医療実習を行った医学生のディプロマ・ポリシー(DP/卒業時の学修成果目標)修得状況について(アンケート)

3. 学生の評価

領域3における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、学生に対し「総括的評価の評価（ユニット成績評価の妥当性）」と「形成的評価の評価（ポートフォリオによる面談の実施状況）」に焦点をあててアンケートを実施した。

学生の代表や外部の専門家が参画している教育プログラム評価委員会からの改善点を通じて、適正な形成的評価と総括的評価を検討・実施することが今後の課題といえる。

3.1 評価方法

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・「山口大学修学支援システム(eYUSDL)」などを用いて学生間の相互評価を行っていることは高く評価できる。

改善のための助言

・知識、技能および態度を含む評価を確実に実施すべきである。
評価を外部の専門家によって精密に吟味すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・修学支援システム(eYUSDL)のアンケート機能を活用し、「総括的評価の評価（ユニット成績評価の妥当性）」と「形成的評価の評価（ポートフォリオによる面談の実施状況）」に焦点をあてて、3年生～6年生の医学科生に対しアンケートを実施した。外部委員から、「担任制の面談実施率が低いことから、教員・学生双方に、担任制の実施方法や主旨・目的の再周知を検討してはどうか」と意見があり、今後の検討課題である。また、知識、技能、態度の総括的評価については、ある程度適正に評価されていると判断できる。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 3-1:医学教育に関するアンケート結果
- ・資料 3-2:令和3年 11 月実施 医学科教育プログラム評価委員会議事要旨
- ・資料 3-3:医学科教育企画会議へ提言する課題

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

- ・評価方法の信頼性と妥当性を検証し、明示することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・令和3年11月に実施した教育プログラム評価委員会の議事要旨及び委員会の動画を、eYUMEの学生専用サイトに掲載し、広く学生に明示している。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 3-4:eYUME 学生専用サイト
- ・資料 3-5:eYUME 動画配信サイト

3.2 評価と学修との関連

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・「山口大学能力基盤型カリキュラムシステム(YU CoB Cus)」による医学科ディプロマ・ポリシーに基づく能力の獲得状況の数値化・可視化システムは、学生の学修意欲の促進につながり、高く評価できる。

改善のための助言

- ・形成的評価と総括的評価を適切な比重で実施すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・形成的評価の一環として、令和2年度より、eYUME 上でポートフォリオを開始し、学業・学業外の様々な項目で学生個々の現状を把握した上で、教員が面談を行う取り組みを開始し、令和3年度も継続して行っている。
- ・形成的評価の一環として、令和2年の臨床・クラークシップ(臨床実習2・1期6週間)より、身に付けるべき能力(診療録の記載)を効率よく学修するため、中間(3週目)と最後(6週目)を目途に、各診療科(第1内科・第1外科)の専門家による評価(ピア・レビュー)を開始し、令和3年度も継続して行っている。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 3-6:学生ポートフォリオ・シート 入力マニュアル【学生用】
- ・資料 3-7:学生ポートフォリオ・シート 確認マニュアル【教員用】
- ・資料 3-8:学生診療録ピア・レビュー入力マニュアル【学生用】
- ・資料 3-9:学生診療録ピア・レビュー入力マニュアル【教員用】

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・学生に対して、評価結果に基づいた時機を得た、具体的、建設的、そして公正なフィードバックを行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・令和3年度から、ポートフォリオの入力を全学年に拡大し(それまでは2年次～5年次)、低年次から高年次まで一貫した形成的評価とフォローアップが可能となった。
- ・令和3年度から、担任教員はポートフォリオを通して学生の授業への出席状況が随時確認できるようになり、メンタル不調等、時期を得たフィードバックを行うことが可能となった。
- ・令和3年度のポートフォリオに基づく面談実施は約3割であり、引き続き、学生に対し時期を得たフィードバックを適切に行うよう、教授会等で周知する。
- ・学生診療録ピア・レビューでは、評価結果を数日以内に学生に返しており、良い点や改善点など詳細なフィードバックを行っている。臨床実習期間中に遅滞なくフィードバックを行うことで、更なる学修改善が図られている。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

4. 学生

領域4における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、令和3年度は、11月に教育プログラム評価委員会、12月に医学部学生・教職員教育改善委員会を開催した。

カリキュラム委員会を含め、学生が委員を務める3つの委員会の充実が今後の課題といえる。

4.1 入学方針と入学選抜

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・多彩な入学者選抜方法を導入している。
- 推薦入試Ⅱのみならず、学士編入学試験においても地域枠を設けている。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・なし

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・なし

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

4.2 学生の受け入れ

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

4.3 学生のカウンセリングと支援

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・成績不振学生や希望する学生に対し、「特別指導コース」を設け、「学習コーチ」が個別指導を行っていることは評価できる。

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

4.4 学生の参加

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・使命の策定、教育プログラムの策定、教育プログラムの管理、および学生に関する諸事項を審議する委員会に学生が参画し、適切に議論に加わるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・令和2年度は、コロナ禍により、対面で授業をすることが難しく、学生に対してキャンパスへの入構を制限する状況となり、同時に委員会等で学生と意見を交わす機会が激減した。令和3年度は、教育プログラム評価委員会と医学部学生・教職員教育改善委員会を開催し、学生や外部からの評価を教育プログラムの改善に活用している。

改善状況を示す根拠資料

・資料 3-2: 令和3年 11 月実施 医学科教育プログラム評価委員会議事要旨《再掲》

・資料 4-1:令和3年 12 月実施 医学部学生・教職員教育改善委員会議事概要

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・学生自治会と協力して、学生の自主的な活動をサポートしていることは評価できる。

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

5. 教員

領域5における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、新たな業績評価制度を構築し、令和2年度の試行後、令和3年度から本格運用を開始した。また、FD 研修会への参加率を上げるため、年度に1回のFD 参加を義務づけた一方、参加方法についてはeYUMEの動画配信サイトを視聴するeラーニング形式でも“可”として、FD 研修会に参加しやすい環境を整えている。

新たな業績評価制度は令和2年度の試行を経て令和3年度から本格稼働し、提出率100%を達成している。今後は本制度を継続、必要に応じて評価項目を見直す等を行うことで、教育・研究力の向上につなげていくことが今後の課題であるといえる。

5.1 募集と選抜方針

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・「教員業績管理システム」を運用し、教員の入力負担を軽減しつつ、教員の活動を質と量の面から評価していることは評価できる。

改善のための助言

・「大学教育職員活動調査票」の提出率を高め、教育職員の評価をより適切に行うべきである。
新規採用教員を含め、教員の研修、能力開発をさらに活性化すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・本法人では、人事給与マネジメント改革を進めることを目的に、文部科学省がとりまとめた「国立大学法人等人事給与マネジメント改革に関するガイドライン(平成31年2月25日)」に基づき、教育研究力の向上に資する魅力ある人事給与マネジメント改革を進めるべく、新たな業績評価制度を構築した。令和2年度の試行を経て令和3年度から本格運用を開始し、その結果を給与等へ反映している。今後は本制度を継続、必要に応じて評価項目を見直す等を行うことで、教育・研究力の向上につなげていくことが肝要である。

・医学科主催の様々な FD 研修会では、医学教育の改善に関するテーマを取り上げており、多くの教員が参加することでより良い医学教育の実現に繋がると考えている。令和2年度から、医学系(医学系研究科・附属病院・医学部)の全ての大学教育職員に、年度に1回の FD 研修会参加を義務づけた一方、参加方法については eYUME の動画配信サイトを視聴する e-ラーニング形式でも“可”として、FD 研修会に参加しやすい環境を整えた。令和3年度は、特に臨床系の大学教育職員の異動が多いことから、5月に新任教職員向けに“新任教職員オリエンテーション”を開催した。また、著作権法改正を理解するため、10月に“著作権法改正と学校教育”を開催した。これらは動画に残し eYUME に掲載することで、後日閲覧することも可能としている。また、11月開催の“教育プログラム評価委員会”、12月開催の“シラバス説明会”も動画に残し、FDとして扱っている。

・医学科生の主要の LMS である eYUME について、機能別に動画を8本作成し、eYUME に掲載して広く周知及び活用を呼びかけている。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 5-1: 国立大学法人山口大学大学教育職員等業績評価実施要項
- ・資料 5-2: 国立大学法人山口大学大学教育職員等業績評価実施要項の運用について (data not shown)
- ・資料 5-3: eYUME 動画配信サイト

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

6. 教育資源

領域6における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、希望する学生について、適切な指導・評価体制が確保できるという条件下で、海外での臨床実習を推奨している。平成 30 年度に1名の実績(ニューキャッスル大学)があり、令和元年度も1名の申請者があった。

ただし、コロナ禍である令和 2 年度および 3 年度においては、海外への渡航が困難な状況にあり、感染状況をふまえての海外渡航許可の判断が今後の課題といえる。

6.1 施設・設備

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・学生のための研究施設「SMAC(The Student Medical Academia Center)」を設置し、教員を配置して研究志向の高い学生に研究参加の機会を与え、多くの学生が活用していることは高く評価できる。
- ・自主学習や、少人数グループ学修に使用できる部屋を学生に十分提供していることは評価できる。
- ・学生が医学部図書館を 24 時間利用できることは評価できる。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・なし

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

6.2 臨床実習の資源

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・「山口大学医学教育総合電子システム(eYUME)」を利用して、学生が経験した疾患分類を把握するシステムを構築していることは評価できる。

「臨床実習 2」で選択できる地域基幹病院と、「地域医療実習」で選択できる学外の病院やクリニックが、十分に確保されていることは評価できる。

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

6.3 情報通信技術

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

6.4 医学研究と学識

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・学部・大学院教育を一貫した「高度学術医育成コース(SCEA/AMRA)」を設定し、多数の学生が研究活動に参加していることは評価できる。

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

6.5 教育専門家

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・医学教育センターに5名の教育専門家が配置され、カリキュラム開発、教育技法、および評価方法の開発をはじめ、医学部教育の改革に貢献していることは評価できる。

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

6.6 教育の交流

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・「自己開発コース」のみならず、臨床実習においても海外交流をさらに進めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・本学では、希望する学生について、適切な指導・評価体制が確保できるという条件下で、海外での臨床実習を推奨している。平成30年度に1名の実績（ニューキャッスル大学）があり、令和元年度も1名の申請者があった。

・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、令和2年度および3年度においては、海外への渡航が困難な状況であった。

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

7. プログラム評価

領域7における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、引き続き、IR と教育プログラム評価委員会について他大学の現状を調べつつ、適正な在り方を模索しているところである。

教育プログラムを改善するために、既存のデータに加え、学生・教職員からどのような評価が必要であり、またどのような設問が適切なのかを検討した上で、効率よく継続的にアンケートを実施することが今後の課題といえる。

7.1 プログラムのモニタと評価

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・2000年度より医学教育の評価を開始し、2018年9月に医学科教育プログラム評価委員会を設置し、プログラムのモニタと評価を開始した。

改善のための助言

・教育プログラムの評価を実質化し、カリキュラムとその主な構成要素について教育プログラムを評価すべきである。

学生の進歩について、教育プログラムを評価すべきである。

教育プログラムの評価に基づいて課題を特定し、対応すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・IR と教育プログラム評価委員会については、他大学の現状を調べつつ、適正な在り方を模索しているところである。IRの基になるデータの多くは、修学支援システム(eYUSDL)、eYUMEのDBを活用しており、eYUMEに関しては、学生の同意の上で、講義評価、ユニット評価、臨床実習評価、臨床実習マイルストーン評価、ポートフォリオ、学生診療録ピア・レビュー等のデータを抽出した上で加工・可視化し、医学科会議等にフィードバックしている。

・学生の進歩については、令和2年度より、eYUME上でのポートフォリオ入力を開始し、また令和3年度からはポートフォリオの対象学年を全学年に拡大し(それまでは2年次～5年次)、学業・学業外の様々な項目で学生個々の現状が収集できており、教育プログラム評価に活用することとしている。

・令和3年度は、「総括的評価の評価(ユニット成績評価の妥当性)」と「形成的評価の評価(ポートフォリオによる面談の実施状況)」を課題として特定し、修学支援システム(eYUSDL)のアンケート機能を活用し、3年生～6年生の医学科生に対しアンケートを実施した。外部委員から、「担任制の面談実施率が低いことから、教員・学生双方に、担任制の実施方法や主旨・目的の再周知を検討してはどうか」と意見があり、今後の検討課題である。

改善状況を示す根拠資料

・資料 3-1:医学教育に関するアンケート結果<<再掲>>

- ・資料 3-2:令和3年 11 月実施 医学科教育プログラム評価委員会議事要旨《再掲》
- ・資料 3-3:医学科教育企画会議へ提言する課題《再掲》

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・教育活動とそれが置かれた状況について、定期的に教育プログラムを包括的に評価することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・令和3年 11 月に教育プログラム評価委員会を開催した。平成 30 年度より毎年度定例的に開催しており（令和2年度はコロナ禍のため休会）、今後も継続して開催する予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 3-2:令和3年 11 月実施 医学科教育プログラム評価委員会議事要旨《再掲》

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・教員に対しては 2019 年 7 月に、学生には 2018 年 7 月に教育プログラムについてのアンケート調査を行っている。

改善のための助言

- ・単発のアンケート調査に終わらず、教員と学生からのフィードバックを系統的に求め、分析し、対応すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・医学教育センターIR 部門及び教育プログラム評価委員会で定例的、系統的に実施している IR 活動についてまとめ、令和3年 11 月に開催した教育プログラム評価委員会で情報を共有した。具体的には、「成績評価を使用した IR」、「eYUME を使用した IR」、「その他アンケート等による IR」である。委員会に参加している学生委員から、「eYUME に入力しているデータが、教育プログラムの改善に活用されていることが分かった」、「CBT、卒試、国試等の結果が解析されており、IR の活動が、当委員会の中だけでなく、他の学生にも広く周知できればよいと思った」、「eYUME の臨床実習ログブックを用いて、自分自身の学修を振り返ることができ、有用だった」等の発言があり、IR 活動が効果的に行われていると判断している。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 3-2:令和3年 11 月実施 医学科教育プログラム評価委員会議事要旨《再掲》
- ・資料 7-1:成績評価を使用した IR について(data not shown)
- ・資料 7-2:eYUME を使用した IR について
- ・資料 7-3:その他アンケート等による IR について

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・教員と学生からのフィードバックを利用して、確実にプログラム開発を行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・令和3年 11 月に開催した教育プログラム評価委員会において外部委員から指摘された「担任制の面談実施率が低いことから、教員・学生双方に、担任制の実施方法や主旨・目的の再周知を検討してはどうか」との意見について、令和3年度の面談実績は3割程度であったため、令和4年度は医学科会議を通じて、効果的な形成的評価を行えるよう面談の意義等を説明することとしている。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・カリキュラム、資源の提供に関して、学生と卒業生の実績を分析すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・学生のデータについては、修学支援システム(eYUSDL)、eYUME の DB 等を活用している。卒業生については、ほぼ全てのユニットを終えた最終学年の6年生に対して行ったアンケートで代用している。6年生のユニット「地域医療実習」を受け入れている地域の約90の医療施設の指導者に、“地域医療実習を行った医学生のディプロマ・ポリシー(DP/卒業時の学修成果目標)修得状況について”のアンケート調査を行い、その結果を医学教育センターIR部門で分析しつつ、eYUME に掲載し、広くフィードバックを行

っている。

・近々、奨学金貸与の入試枠(特別枠)の定員削減が始まることを想定し、臨床研修指定病院や山口大学入局状況等の卒業生の実績を可視化した上で、適正な入試枠の在り方の検討を開始したところである。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2-8: 地域医療実習を行った医学生のディプロマ・ポリシー(DP/卒業時の学修成果目標)修得状況について(アンケート)《再掲》
- ・資料 7-4: 令和3年度地域医療実習を行った医学生のディプロマ・ポリシー(DP/卒業時の学修成果目標)修得状況【結果】
- ・資料 7-5: IR 帳票(卒業年度別帰省先と初期臨床研修先の関係等)(data not shown)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・学生を取り巻く社会的、経済的、文化的環境などの背景と状況に関して、学生と卒業生の実績を分析することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・令和3年度に、eYUME のポートフォリオシステムを改修し、学生の出身高校、入試枠、留年歴、講義への出席状況等を担任教員が把握した上で面談ができるようになったため、学生個々を取り巻く社会的、経済的、文化的環境などの背景と状況等を踏まえた上でのフィードバックを行うことが可能となった。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 3-6: 学生ポートフォリオ・シート 入力マニュアル【学生用】《再掲》
- ・資料 3-7: 学生ポートフォリオ・シート 確認マニュアル【教員用】《再掲》

7.4 教育の関係者の関与

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・医学科教育プログラム評価委員会に、教員をはじめ、学生、事務職員が正式な委員として参加している。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・2018年11月に、58の山口大学医学部関連病院に山口大学医学部卒業生のディプロマ・ポリシー達成度をアンケート調査している。

改善のための示唆

・広い範囲の教育の関係者に、ディプロマ・ポリシーの修得状況だけでなく、教育カリキュラム全体に対するフィードバックを求めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・6年生のユニット「地域医療実習」を受け入れている地域の約90の医療施設の指導者に、“地域医療実習を行った医学生のディプロマ・ポリシー（DP/卒業時の学修成果目標）修得状況について”のアンケート調査を行っており、その中で、山口大学の医学教育に対するご意見、希望等の自由記載欄を設けている。その回答結果については、医学教育センターIR部門で分析しつつ、eYUMEに掲載し、広くフィードバックを行っている。

改善状況を示す根拠資料

・資料 7-4: 令和3年度地域医療実習を行った医学生のディプロマ・ポリシー（DP/卒業時の学修成果目標）修得状況【結果】《再掲》

8. 統轄および管理運営

領域8における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、引き続き、学生に関係のある重要な議事要旨や規則については、eYUME で公開しているところである。

これらの議事要旨等を広く学生に閲覧を促し、教育プログラムの改善に多くの学生が参画することが今後の課題といえる。

8.1 統轄

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・学生自治会が学生の代表として、教学関係の委員会組織の構成員になっていることは評価できる。

改善のための示唆

・統轄業務とその決定事項の透明性を確保するために、教育関係の規則や議事録を適宜学生にも公開することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・eYUME の学生専用サイトに、学生が委員として参画しているカリキュラム委員会、教育プログラム評価委員会、学生・教職員教育改善委員会について、平成 30 年度以降の議事要旨及び関連規則等を掲載し、広く学生に周知している。令和3年 11 月に開催した教育プログラム評価委員会については、委員会での発言及び配付資料を動画にして eYUME に掲載し、広く学生に周知している。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 8-1:eYUME 学生専用サイト
- ・資料 3-5:eYUME 動画配信サイト《再掲》

8.2 教学のリーダーシップ

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

8.3 教育予算と資源配分

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

8.4 事務と運営

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・医学教育センターを設置し、教育プログラムと関連の活動を支援している。

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・医学教育関連の事務職員の職務分担と異動に配慮し、業務が円滑に引き継がれるように配慮している。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・なし

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

8.5 保健医療部門との交流

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・山口県や地域の保健医療機関との連携が構築されている。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・なし

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

9. 継続的改良

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・若手医師確保の問題意識を共有し、現状分析を実施している。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・なし

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・評価せず

改善のための示唆

- ・評価せず

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・なし

改善状況を示す根拠資料

- ・なし